

会報

人と地域に寄り添う奉仕で、魅力的なクラブを！



2014.01.22 第1089回例会 No.24-26 2014.01.29 発行

司会 SAA・親睦委員会 杉山 真一

点鐘 会長 萩生田政由

ロータリーソング 「それでこそロータリー」
ソングリーダー 菊池 敏
「四つのテスト」の唱和
SAA・親睦委員会 足立潤三郎

お客様紹介 会長 萩生田政由
岡山西南RC 椎原 裕二様
卓話講師 タイガ マスク基金事務局 工藤ルリ子様

会務報告 会長 萩生田政由
第12回理事会(定例)の審議・承認事項を報告します。
* 昨年末に入会されたばかりの新会員(M・Iさん)が体調を崩され、ロータリー活動の継続が不可能になったことによる退会届を受理し承認しました。
* クリスマス例会の会計報告を承認。
* ロータリー財団東日本震災復興基金からの累計拠出額が496,774,436円となりました。現在でも預託金残高がUS\$96万あり、「プロジェクト再申請」の案内が届いています。締切は2月28日迄ですが、当クラブでは申請しない方針です。
* 第2回クラブ会長・幹事会(1月18日(土))の報告を行い、その際のテーマ「地区大会(2月26日・27日)への対応」について協議しました。
・当クラブの歴史や特色をアピールするコーナーの作成を宮本会員に依頼しました。
・大会当日の「SAAおもてなし隊」協力依頼対応は、杉山SAA委員長・峯岸忠会員にお願いしました。
2750地区「地区大会」(26日)プログラムの説明。
<セミナー/ワークショップ/シンポジウム>一覽
指導者育成セミナー(研修プログラム)
新世代ワークショップ(新世代と語ろう)
PBGワークショップ(東京、グアム、サイパン、パラオ、ポンペイ、チュークと、異文化地域間の交流)
2020東京オリンピック提言の輪ワークショップ
国際奉仕に寄与する「奉仕事業」ワークショップ

会員基盤強化ワークショップ
環境改善「最も美しい首都東京へ」シンポジウム
(杉並RCの取り組み 他)
~ の各プログラムは定員があります。ご注意下さい。

幹事報告 幹事 三田みよ子
* 配布物:「地区大会」(26日) セミナー/ワークショップ/シンポジウムの詳細内容(A3)・2750地区ローターアクト広報誌
* 回覧:富士見RC40周年記念誌・ハイライトよねやま・Voice of friends(FRIENDS WITHOUT A BORDER)

【委員会報告】

出席報告 出席奨励委員会 小坂 一郎

会員総数	36名
出席義務者数	27名
出席義務免除者	9名
出席者数 出席義務者(事前MU含)	19名
出席義務免除者(事前MU含)	6名
計	25名
出席率	25/33 = 75.76%
第1087回例会(1/10)訂正出席率	88.24%

ニコニコBOX SAA・親睦委員会 入沢 修自
椎原 裕二様 アケオメ!

今年もよろしくお願ひ致します。
萩生田政由 タイガーマスク基金事務局 工藤ルリ子様 本日の卓話を楽しみにしています。
三田みよ子 お客様ようこそ 椎原様お久しぶりです。工藤様卓話宜しくお願ひします。
足立潤三郎 雪が降らなくて良かったですね。
大松 誠二 われらの「タイガーマスク」の活躍を期待していますヨ。
伊澤ケイ子 寒いですネ風邪に気をつけましょう。
菊池 敏 工藤様卓話よろしくお願ひします。
森本 由美 工藤様、本日はお忙しいところありがとうございます。卓話よろしくお願ひします。

宮村 宏 工藤さん卓話よろしくお願ひします。
 村上 久 工藤様 卓話楽しみです。
 齋藤 誠壽 工藤様 本日は勉強させて頂きます。
 関岡 俊二 工藤様 卓話楽しみにしています。
 澄川 昇 工藤さん卓話よろしくお願ひ致します。

本日の合計 ¥ 17,000 (累計 ¥ 721,448)

その他委員会

ルイズ・ウィズアウト・ア・ボーダー-JAPAN について

国際奉仕担当 プロジェクト実施委員長 関岡 俊二
 当クラブでは一昨年来、赤尾和美さんを通じて“アンコール小児病院(カンボジア)の子供達に遊具を贈る”などのプロジェクトを実施してきました。開院後10数年、アンコール小児病院への来院子供数は500人/日を越えるまでに成長し、今では、育成した現地スタッフによって順調に「自立運営」されています。

(運営を行う現地のスタッフによる院内組織は、病院設備のその後の拡張や、オックスフォード大学とのパートナーシップ、また、カンボジア政府からの認証も受けるなど一層の発展が期待されています。)

「ラオ・フレンズ小児病院」

昨年11月26日、フレンズ・ウィズアウト・ア・ボーダーとルアンパバーン県(ラオス)保健局との間で“覚書”が調印され、“ラオ・フレンズ小児病院”プロジェクトが正式に発足し、鍬入れ式も行われた模様です。

今後、2015年の開院に向けて「ラオ・フレンズ小児病院」の建設工事が始まります。(今年に入り、スタッフの育成にも着手されているようです。)

今後、赤尾和美さん(フレンズJAPAN 副代表、看護師、東京多摩グリーンRC ロタフェロー)の活動拠点は、カンボジアから“ラオス”になります。先日の電話連絡によると、これから2~3ヶ月は、ラオスの子供達の状況をサーベイ(現地調査)されるそうです。

当クラブの奉仕プロジェクト実施委員会では、赤尾さんからアドバイス受けながらラオスのこどもたちに喜ばれる支援を心がけて参りたいと思います。

ラオ・フレンズ小児病院 見取り図



卓話者紹介

堤 香苗会員

本日卓話をいただきます工藤ルリ子様をご紹介します。工藤様は外資系企業の社会貢献部で8年間、子ども支援に携わってこられました。子ども虐待防止の啓発活動、被虐待児の治療・カウンセリング事業、施設退所後の自立支援事業への助成、奨学金制度の立ち上げ、施設児童の自然体験活動への招待など、社会的養護が必要な子どもたちへの支援活動を担当されました。2013年、タイガーマスク基金のNPO法人化に伴って企業を退職。現在は、基金事務局を担っておられます。

卓話 「子どもたちに平等な進学のを」

タイガーマスク基金 工藤 ルリ子様



2010年12月頃から児童相談所に“ランドセルが届く”という群馬県のケースがきっかけで、全国各地の児童養護施設に文房具やランドセルが届けられる拡がりを見せたのがタイガーマスク運動です。タイ

ガーマスクや、主人公の伊達直人の名前(匿名)で次々と贈り物が届けられたことを皆様、ご記憶されていると思います。

(梶原一騎原作の漫画・アニメ“タイガーマスク”の主人公伊達直人は、ちびっ子ハウスという孤児院で育ったのちにレスラーになって、そのファイトマネーでおもちゃを買って届けるというストーリーでした。)タイガーマスク基金は、その運動を受けて立ち上がった団体です。原作者の故梶原一騎先生の奥様と、まんが作家の辻なおき先生の奥様が発起人となられ、講談社からタイガーマスクマークを“ロゴ”として使用する了解を得て、特定非営利活動法人(NPO)の活動を始めました。現在、児童養護施設や乳児院、自立援助ホーム等の社会的養護のもとで暮らす子ども・若者は5万人近くになります。施設に入所する子どもの半数以上は虐待等からの保護です。(子どもへの“虐待”相談件数は6万件/年)児童養護施設は全国で580カ所ほどあり、3万人の子ども達がそこで暮らしています。NPO法人タイガーマスク基金では、児童養護施設で暮らす自立が困難な子どもや若者をサポートし、また、施設を退所した後に社会的養護を必要とする子ども・若者に生活自立、学業、就労、家族形成、社会参画などの支援を行うとともに、広く一般にこの問題を提起し、児童養護施設や自立援助ホームなどが抱える課題の根本解決を図ることを目的とする団体です。

お礼と点鐘

会長 萩生田政由

(今週の担当: 海野 榮一)